NISSAY ASSET MANAGEMENT

週間市場レポート（2022年10月17日～10月21日）

1）先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/10/14	先週末 2022/10/21	前週末比 (%)
日経平均株価（円）	日本	27,090.76	26,890.58	▲ 0.74 ↘
ＴＯＰＩＸ（東証株価指数）	日本	1,898.19	1,881.98	▲ 0.85 ↘
ダウ工業株30種平均（ドル）	米国	29,634.83	31,082.56	4.89 ↗
Ｓ＆Ｐ500種指数	米国	3,583.07	3,752.75	4.74 ↗
ナスダック総合指数	米国	10,321.39	10,859.72	5.22 ↗
ユーロ・ストックス50指数	ユーロ	3,381.73	3,476.63	2.81 ↗
Ｓ＆Ｐ/ＡＳＸ300指数	豪	6,732.25	6,653.27	▲ 1.17 ↘
上海総合指数	中国	3,071.99	3,038.93	▲ 1.08 ↘
MSCI AC アジア（除く日本）※		724.68	717.16	▲ 1.04 ↘
東証ＲＥＩＴ指数	日本	1,902.60	1,862.75	▲ 2.09 ↘
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数	米国	652.93	669.99	2.61 ↗
ＡＳＸ300 ＲＥＩＴ指数	豪	1,243.60	1,241.60	▲ 0.16 ↘
グローバルＲＥＩＴ（除く日本）※		156.24	159.74	2.24 ↗
日本10年国債（%）	日本	0.251	0.256	0.005 ↗
米国10年国債（%）	米国	4.018	4.217	0.198 ↗
ドイツ10年国債（%）	ドイツ	2.346	2.417	0.071 ↗
英国10年国債（%）	英国	4.335	4.054	▲ 0.281 ↘
ドル/円	米国	148.67	147.65	▲ 0.69 ↘
ユーロ/円	ユーロ	144.62	145.68	0.73 ↗
英ポンド/円	英国	166.35	166.85	0.30 ↗
豪ドル/円	豪	92.24	94.19	2.12 ↗
フィラデルフィア半導体指数		2,162.32	2,336.69	8.06 ↗
ＷＴＩ原油先物（ドル）		85.61	85.05	▲ 0.65 ↘
ＣＲＢ指数		276.69	272.36	▲ 1.57 ↘

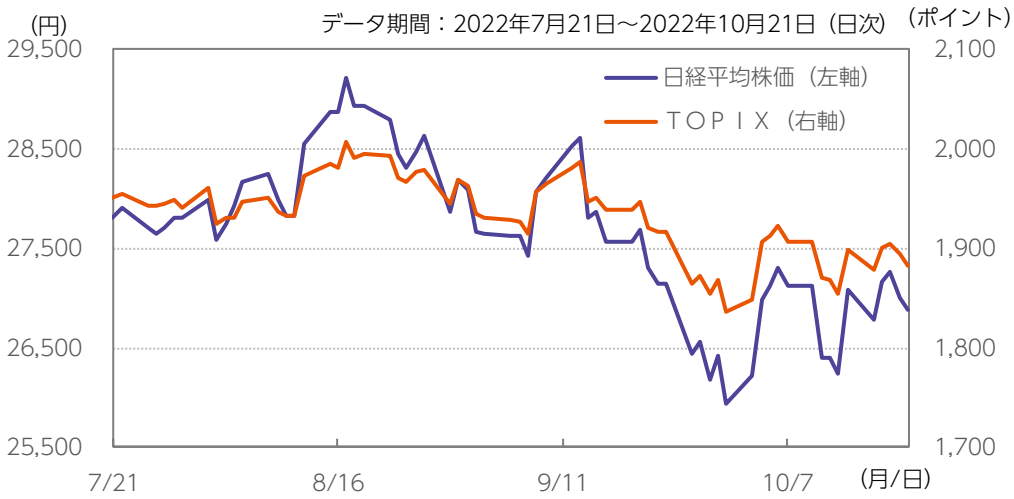
出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
※現地通貨ベース　＊ ▲はマイナスを表します。

2）日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で横ばいとなりました。

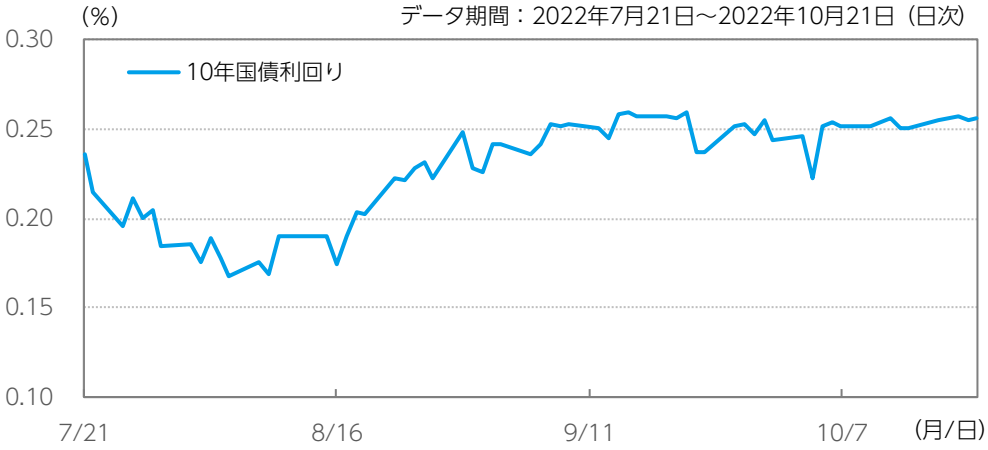
米連邦準備制度理事会（FRB）が積極的な金融引き締めを継続するとの警戒感から、週初は値がさ株を中心に売られ下落しました。その後、円安が進行するなか、新型コロナウイルス対策の入国規制の緩和により、インバウンド需要で国内消費が活性化する期待が高まったことや、米大手金融の良好な決算が好感され上昇しました。週末にかけては、米長期金利が4.0%を超えおよそ14年ぶりの高水準となったことが嫌気され、米株式市場が下落した流れを受け下落しました。



≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。

米長期金利の大幅上昇を受け、長期金利は日銀が許容する長期金利の変動幅の上限である0.25%近辺で推移しているものの、日銀の連続指し値オペにより金利上昇は抑制されていることから、週間での長期金利の上昇幅は限定的となりました。

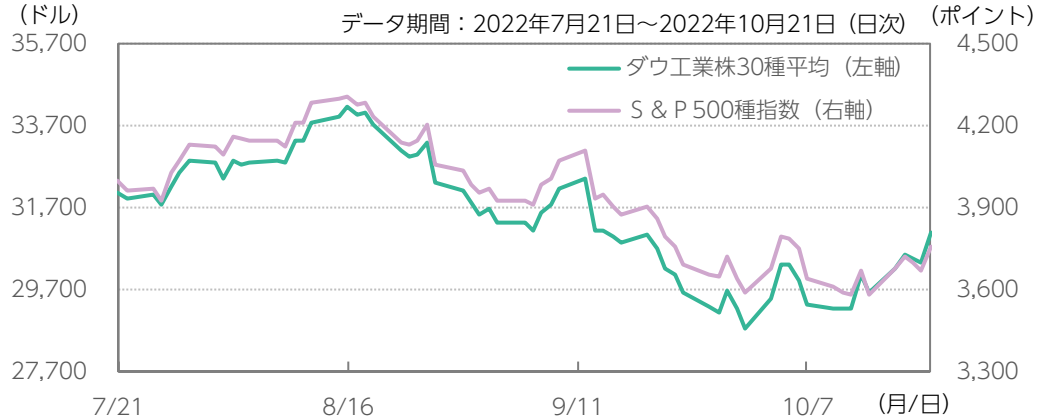


3）米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で上昇しました。

米主要企業の決算発表が本格的に始まり、業績が想定より悪くないとの見方から、週初より上昇しました。その後、堅調な米経済指標を受けFRBの積極的な金融引き締めの継続が意識されると、金利上昇時に割高感が意識されやすいハイテク株を中心に売られたものの、週末は、FRB高官の発言で米国の利上げペースが緩むとの見方が広がると上昇しました。

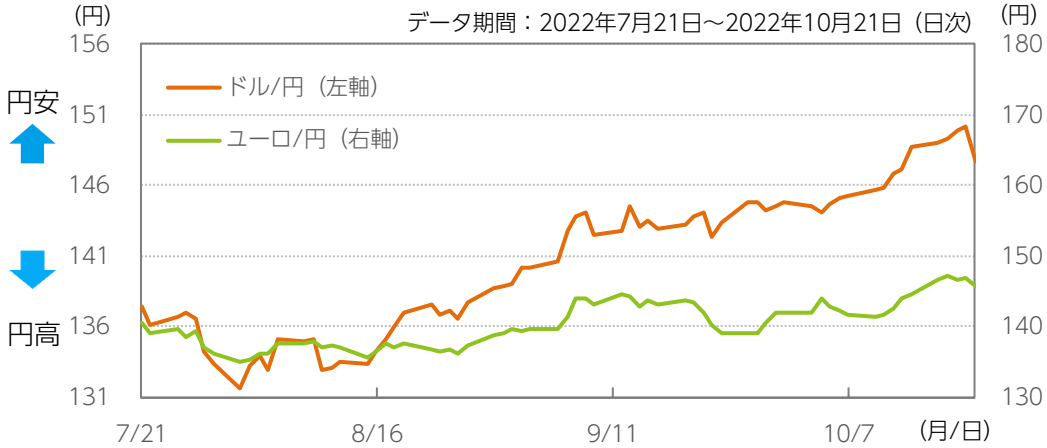


出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4）外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。

米長期金利が約14年ぶりとなる4.0%を超える水準まで大幅上昇したことから、日米金利差の拡大を見込む円売り米ドル買いが進み、1ドル＝152円に迫る水準まで円安が進行したもの、22日未明、政府・日銀が円買い米ドル売りの為替介入を行ったとみられ、一時144円台まで円高が進行しました。



5）今週の見通しについて

米国の先行きの金融政策をめぐる思惑から、株式市場は不安定な値動きが続いています。

英国のトラス首相が20日、辞任を表明しました。9月6日の就任以降、大規模な減税によって経済成長を促す政策を掲げてきたものの、財政悪化への懸念から金融市場は混乱し、政策の大半を撤回することとなりました。後任は28日までに決定される予定であり、現時点では、前回党首選の決選投票をトラス氏と争ったスナク元財務相が新首相の最有力候補となっているようです。今後は、新首相がどのようなかたちで国民と金融市場から信頼を取り戻すかに注目が集まります。

米国に続き国内企業の7－9月期決算発表も本格化し、今週は好業績の企業や業績見通しが良好な銘柄を中心に買いが集まりそうですが、米国の利上げの長期化や、それにともなう景気悪化懸念は根強く、引き続き慎重な値動きとなりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

＜設定・運用＞

ニッセイアセットマネジメント株式会社

商 号 等：ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者
関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社
コールセンター　0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ　https://www.nam.co.jp/